

情報ツールの使い方？

〇〇さま、お元気ですか？朝晩急に冷え込んできましたが、まだ日中は半袖でなければ暑くて仕方がないという状況もあります。着るものにちよっと困るこの頃です。

さて、情報化社会と言われて久しく、昨今の益々発達する情報技術にいささかついて行けない感がある私ですが、一応Facebook などやっております。友人の投稿にいいね！したり、ごくたまにコメントなども載せたりしております。このような情報ツールはいながらにして国内のみならず世界各国の人とつながることができ、個人の発言が自由に行え、それに対して共感、異論など様々なレスポンスが即来る、災害などの情報がなにより早く確実に伝わる、など多くのメリットがあります。しかし、誤った情報の流出や意図的な、悪意を持った情報操作も可能であり、利用する側のモラルに一任されているような面があることも事実だと思えます。

敢えて誤解を恐れず申しますと、誰しも多かれ少なかれ偏った考え方を持っており、また世の中に起こること全てを解っている人はいないはず。互いに異論を述べることが良いですが、怖いのは、自分の見方・考え方が絶対に正しいとして他の人の異見に耳を貸さず、攻撃の対象としてしまうことだと思えます。

個人の発言が公の場に出しやすくなった今、意識しなければならぬと感じるのは、一度書き込んだことには「責任」が生じるということです。

少し話が逸れるかもしれませんが、この「責任」ということについては「他責」とするか「自責」とするか？大きく発言と行動に差が出ますよね。卑近な例で言うと、子どもが図書館でうるさくして注意を受けてしまった時「あのオジサンが怒るから静かにしなさい」と言うことと「ここは静かに本を読む場所。あなたはそれを守らないのだから注意されて当然。静かにしなさい」と言っているのでは、何で静かにしなければならぬかという理由と責任の所在の認識に大きな違いが出ます。（前者のような言い方をする人はいないかと言うと、これがそうでもないからちよっと怖いのですが）この責任の所在がどこにあるかという考え方が、ひいては情報ツールの使い方に及ぶのではないか・・・と思ってしまうのは飛躍しすぎかもしれませんが、いずれにしても気を付けなければならぬと感じているこの頃です。

日本の野鳥シリーズ

ガビチョウ
画眉鳥に罪はない

技術営業部 佐藤 弘

鳥の分布域拡大に人が関わるパターンが二つある。一つは中国南部から我が国に持ち込まれたコジュケイを例に、狩猟対象としての移入、そしてペットの外国種が逃げたカゴ抜けの数々だ。ご多分にもれず、雪国新潟にもカゴ抜けのガビチョウがやってきた。先輩方は数年前から近くの山で声を聞くようになったと話していたが、二年前の五月ついに調査地の網に掛った。

新潟県在住の鳥キチ八人が香港ツアーを仕立て、三日と半日かけて七か所の探鳥地を巡ったのは、昭和最後の年末年始だった。本場の中華料理を食べ歩くだけで、観光一切なしという気合いの入れ方だ。時は金なり、元旦も水源池公園に行く地元のおトサン達が、ガビの鳥カゴを幾つか持ち寄り鳴き合わせをしているところで、クロツグミに似た声を初めて聴いた。だが、目の前の人と会話がままならないほどの大音量には驚いた。

さて、思い起こせばペット・ショップでカナリアを見かけなくなって久しい。鳴禽と呼ばれる歌い手の囀りを楽しむのは、流行りではなくなったらしい今どき、ガビが受け入れられる筈がない。なにしろ、夜明け早々に大声で起こされては我が身がもたない。だから逃げたのではなく飼い主が逃がしたほか、売れ残りを持って余した店に捨てられたという説は素直に納得できる。それであれば不自然に数が増える訳がないという。

異国で自活を余儀なくされたガビは懸命なのに、侵略的外来種と呼ばれては立つ瀬がない。ガビにすれば「私らの身にもなってほしい」と言いたかろう。また、棲息域や餌が競合するウグイスへの影響が心配されると言うが、国土の七割を森林が占める我が国に、ガビが割って入る余地は充分ありそうだから、まずはとり越し苦労だと思う。さらに、うまく定着したガビが爆発的に増えることを懸念する向きもあるが、様々な捕食者がいる生態系で本種だけが增加することは考えられない。ともかく、時計の針を戻すことはできないのだから、彼らの存在を容認するほかない。ただ、農作物に悪さをするんじゃないぞと言っておきたい。

画眉は眉を描くことを意味する、全身茶色で目の周りと目尻が白いツグミ大の鳥だ。鳥キチの案内は初めてという、ガイドの朱さんから本種の漢名「畫眉」の発音を教わった。広東語でホワメイと言うそう。

“塵も積もれば…”

サポート・新規事業PJ 山本知男

先日知人と10数年振りに会ってお互いの近況など話しました。私は相変わらず細々ながら楽器やってる事を話したら、「そこまで行けばもうプロだね。」と冷やかされましたが知人が言うには「どんな事でも同じことを3万時間やればプロになるって聞いたよ。それぐらいやってるんじゃない？」との事。その時は「そんな訳ないでしょ。」って言ってたんですが、後々考えると3万時間って凄い事だなんて思いました。1年365日、毎日1時間練習しても365時間、2年で730時間、8年で2920時間という事は80年続けても3万時間には行かない。毎日2時間でも40年以上続けなければならない。なるほど3万時間も続ければプロ並みになれると言う話も納得出来るかなと、まあプロになろうと志している人は1日10時間以上の練習するでしょうけどね。

それで私はどれ位練習してきたかザッと計算してみました。学生時代は1日3~4時間で8年間、盆正月とテスト期間以外は毎日やってたので年間300日×4時間×8年=9600時間。社会人になってからは週2回2時間位で40年だと約8000時間、まだ17000時間位か〜…、やっぱりプロには程遠かった。

でもこれを仕事してる時間で考えると凄い事だなと感じます。年間200日、8時間としても20年で3万時間を超えます。実際もっと働いてるんで、より早く一人前になるんでしょうね。一つの仕事を10年20年と続けていけばプロか…。で、自分はどうなんだろうって、ちょっと考えてしまいました。

継続は力なり、塵も積もれば山となる、掛けた時間を、塵のままにするか山と成すか、自身の行動、考え次第かなと。

◆ ちょっと豆知識 ◆ その25「福山雅治にはなれずとも」技術営業部 部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

この話をこの紙面上でしていいのかわかりませんでした。隣で仕事をしてる神田さんに嫌われないかと心配にもなりましたが、ネタもそろそろ尽きてきたので思い切って告白します。

昨年(平成26年)のお盆以降一度も、入浴時にシャンプー・石鹸の類を一切使っていません。

加齢臭全開のこの年齢(S46生)で、かなりリスクなチャレンジ。福山雅治や妻木木聡が実践しているという週刊誌の記事がニュースソースというので程度が知れますが、いわゆる「無洗入浴」を実践して一年が経過しましたので、来し方を振り返ってみたいと思います。

正しい?入浴法はまだ別にあるのでしょうか、私がやっているのは、掛け湯をした後湯船にゆっくりつかる、という極簡単なもの。その間顔を洗ったり、頭にお湯を掛ける程度で、その他のことは特にしません。時間も10分程度です。

夏の盛りに始めたので、汗臭くて周囲に迷惑を掛けないかな?と心配になりましたが、むしろ自身で感じる体臭は軽減したように感じましたし、当時高3の長女に「お父さん臭くないか?」と聞いたところ「おばあちゃん子のタンスみたいな臭いがしなくなった」と言われました。そうか、俺はタンス臭かったのか…。

環境への負荷もぐっと減っているはずだし、家計にも優しいとなるといいことづくめです。

今のように衛生観念が発達する前の日本人も、そんなに臭わなかったのかもな、なんてことを思いましたし、昨今の「なんでもかんでもデオドラント」「気になる汗の臭いに…」的な宣伝、ものの売り方にも少し疑問を感じるようになりました。

県外のある杜氏さんからおもむろに「私無洗入浴実践してるんです」と告白されて面食らった経験があります(こちらが同好の士であるという話は事前にしてないのに)。同じ臭いを感じるのかしら…。「秘密の共有」をしたような気持になりシンパシーを感じました。

さあ、試しに実践してみようと思った皆さん、いくつか注意点があります。

- ・シャワーはダメです。「お湯に一定時間つかる」という行為に恐らく意味があります。
 - ・湯船のお湯は、恐らく通常の入浴法よりも汚れるので一番風呂はダメです。特に思春期の娘さんのいる方は父親の威厳が損なわれます。
 - ・人によってはフケがひどくなるようです。髪の毛の長い方には向かないかも知れません。
- 実践されるのはご自由ですが、それにより生じるいかなる事態にも当方は責任を負いかねますので、予めご了承下さい。

☆ やってしまった ☆

エッセイ

生産部 島貴 修一

危うく救急車を呼ぶ騒ぎになるところだった。

土曜日の午後4時頃に外出から戻ってきたが、冷たいコーヒーが飲みたくなった。そこでシンクの横に置いてあるマグカップに、氷と紙パックのコーヒーを入れ、いっきに喉に流し込んだ。次の瞬間、喉と口の中に広がる異様な味(塩味+薬品)で、あることを思い出した。消毒するため、カップに漂白剤の「キッチン〇〇〇〇」を少量入れていたのだ。

直ぐに吐き出そうとしたが空腹だったせいか出てこない。そこで水をコップで4杯飲み、喉に指を突っ込んで胃が空になるまで吐き出した。更に同じことをもう1回。続いて牛乳を3杯飲みしばらく経過観察。頭に浮かんだのは「次亜塩素酸ナトリウムの毒性は微生物と魚には強烈だけど、人にはどうなんだろう」。2時間後、喉に違和感が残っているが痛みは無いし、胃にも異常は感じられないので、応急処置が間に合ったようだ。その日の夕食は普通に食べられたし、翌日以降も身体には何も起きなかった。

誤飲誤食は幼いころにショウノウを齧ったことがあったけど(母の話では)それ以来のこと。今回は冷静に対応できたが、我ながらうっかりにも程があるとあきれ返ってしまった。ところがそんな深刻な状況なのに頭に閃いたのは、「これはエッセイに使える」。

全然反省していない。

